

イスタンブールでのワークショップ“Importance of the Near Eastern Archaeology for the Next Generations”

宮内優子（筑波大学・大学院生）

1. ワークショップの概要

本ワークショップは、2019年3月1日（金）から3月3日（日）の3日間、イスタンブールの Akgün Hotel の会議室にて開催した。参加者は約50名であり、参加者はトルコ在住のシリア人の高校生、教師、考古学の専門家など幅広い年齢層と職業にわたった。発表はアラビア語で行われ、英語の発表についてはアラビア語の通訳が行われた。初日と2日目の最後にはディスカッションの時間が設けられ、最終日にはワークショップ全体のディスカッションが行われた。

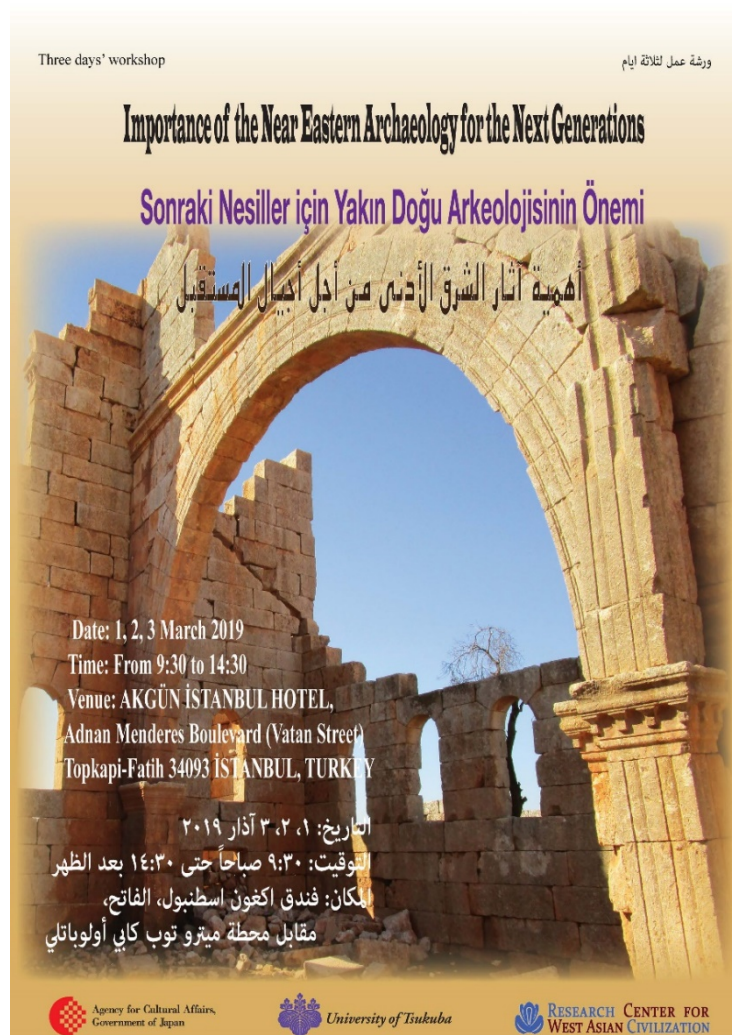


図 1 プログラムの表紙

Workshop Program

برنامج ورشة العمل

First Day: 1 March 2019

اليوم الأول: آذار ٢٠١٩

9:30 - 10:00

Reception

٩:٣٠ - ١٠:٠٠

استقبال وتسليم البطاقات الاسمية

10:00 - 11:00

Opening

Prof. Akira Tsuneki

Ms. Ceylan Ergin

Ms. Asiye Şahin

Mr. Jamal Aboalvard

Dr. Said Sabbagh

١٠:٠٠ - ١١:٠٠

الافتتاح

البروفيسور أكيرا تسونيكى

الأستاذة جيلان ايركين

الأستاذة آسيا شاهين

السيد جمال أبو الورد

د. سعيد صباغ

11:00 - 12:00

Prof. Akira Tsuneki, University of Tsukuba
"Importance of the Near Eastern Archaeology"

١١:٠٠ - ١٢:٠٠

البروفيسور أكيرا تسونيكى، جامعة تسوكوبا
«أهمية علم آثار الشرق الأدنى»

12:00 - 12:30

Coffee break

١٢:٣٠ - ١٢:٠٠

استراحة قهوة

12:30 - 13:15

Dr. Youssef Kanjou, The University of Tübingen
"The prehistory of Syria"

١٢:٣٠ - ١٣:١٥

د. يوسف كنجو، جامعة توبنغن
«سورية في عصور ما قبل التاريخ»

13:15 - 14:00

Dr. Shaker Al Shbib, Université paris I
"Syria in the Hellenistic, Roman and Byzantine periods" و «سورية في الفترات الهلنستية و الرومانية و البيزنطية»

١٣:١٥ - ١٤:٠٠

د. شاكى الشبيب، جامعة باريس

«سورية في الفترات الهلنستية و الرومانية و البيزنطية»

14:00 - 14:30

Discussion

١٤:٣٠ - ١٤:٠٠

مناقشة

14:30

Lunch

١٤:٣٠

الغداء



Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan



University of Tsukuba



RESEARCH CENTER FOR
WEST ASIAN CIVILIZATION

Workshop Program

برنامج ورشة العمل

Second Day: 2 March 2019

اليوم الثاني: ٢ آذار ٢٠١٩

9:30 - 10:30

Dr. Shinichi Nishiyama, Chubu University

"The Bronze and Iron Ages of Syria"

٩:٣٠ - ١٠:٣٠

د. شين إيتشي نيشياما، جامعة تشوبو

«عصري البرونز والحديد في سورية»

10:30 - 11:15

Dr. Sari Jammo, Univeristy of Tsukuba

"Archaeology and Society in Japan"

١٠:٣٠ - ١١:١٥

د. ساري جمو، جامعة تسوكوبا

«الأثار والمجتمع في اليابان»

11:15 - 12:00

Dr. Said Sabbagh, Istanbul Technical University

"Sterilization of the Manuscripts by Irradiation"

١١:١٥ - ١٢:٠٠

د. سعيد صباغ، جامعة اسطنبول التقنية

«تعقيم المخطوطات بالتشعيع»

12:00 - 12:30

Coffee break

١٢:٣٠ - ١٢:٠٠

استراحة قهوة

12:30 - 13:15

Mr. Abdullah Şeyhoğlu, Al Huda School

"The Role of Education in the Integration of Syrian in Turkish society"

١٢:٣٠ - ١٣:١٥

السيد عبدالله شيخ اوغلو، مدرسة الهدى

«دور التعليم في دمج السوريين في المجتمع التركي»

13:15 - 14:30

Discussion

١٣:١٥ - ١٤:٣٠

مناقشة

14:30

Lunch

١٤:٣٠

الغداء



Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan



University of Tsukuba



RESEARCH CENTER FOR
WEST ASIAN CIVILIZATION

Workshop Program

برنامج ورشة العمل

Third Day: 3 March 2019

اليوم الثالث: ٣ آذار ٢٠١٩

9:30 - 10:15

Mr. Anas Alaver, Syrian Scouts Gathering
"The role of Scots Movement in promoting
the Syria's archaeology"

٩:٣٠ - ١٠:١٥

السيد أنس العوير، نَجْمَع الكشاف السوري
«دور الحركة الكشفية في التعريف بآثار
سورية»

10:15 - 11:00

Eng. Ahmad Masri, The Syrian Association
for Preservation of Archaeology and Heri-
tage
"Ancient City of Aleppo, documentation and
preservation works during the war"

١٠:١٥ - ١١:٠٠

م. أحمد مصري، الجمعية السورية لحفظ
الآثار والتراث
«مدينة حلب القديمة، أعمال التوثيق والحماية
خلال الحرب»

11:00 - 11:45

Mr. Bahjt Almoustafa, Istanbul University
"Promoting awareness of cultural heritage"

١١:٠٠ - ١١:٤٥

السيد بهجت المصطفى، جامعة اسطنبول
«نشر ثقافة الوعي بالتراث»

11:45 - 12:15

Coffee break

١١:٤٥ - ١٢:١٥

استراحة قهوة

12:15 - 13:45

Final Discussion

١٢:١٥ - ١٣:٤٥

المناقشة النهائية والتوصيات

13:45 - 14:30

Closing

١٣:٤٥ - ١٤:٣٠

ختام ورشة العمل

14:30

Lunch

١٤:٣٠

الغداء

2. 発表の概要

「西アジア考古学の重要性」

常木晃（筑波大学・教授）

古代西アジア地域は、農耕、牧畜、文字システム、都市文明、冶金、宗教など現代文明の基層となった多くの事象が誕生した地域であり、人類史のなかでも特に重要な革新が起きた地域である。シリアの考古学の重要性について、常木晃教授は農耕の開始、都市の形成、文字の発明という大きく3つのトピックに分けて説いた。シリアの遺跡と文化財は人類史を語る上で不可欠であり、シリアの人々のみならず全人類にとっても重要である。それは多くの研究者を魅了し、シリアには2010年の時点で110以上の外国の調査隊が入っていたことから明らかである。日本の発掘隊も1970年代からほぼ途切れず調査を行っていた。現在危機に瀕しているシリアの文化財に対して、これまで常木教授が中心となった活動は、国際会議やワークショップの開催、シリアの著名な遺跡を集成した本の出版、遺跡の三次元測量とコンピュータでの三次元復元、文化財を保護するためのマニュアルづくりなど、大変多岐に渡る。



図2 常木晃



「先史時代のシリア」

ヨーセフ・カンジョウ (チュービンゲン大学・博士)

ヨーセフ・カンジョウ博士は、旧石器時代から銅石器時代までのシリアの歴史について主要な遺跡や遺物と共に概説した。シリアでは古くは旧石器時代から、人々の活動を示す遺跡が数多く発見されており、デデリエ洞窟からはネアンデルタール人の居住址と埋葬が発見された。新石器時代には新石器革命と呼ばれる変革が起き、それまでの遊動生活から恒久的な集落へ、そして農耕の開始、家畜化と人々の生活と生業は大きく変化した。またシリアの遺跡からは世界最古といわれる壁画も発見されている。続くハラフ文化期には、シリアの北東で都市化が始まった。



図 3 ヨーセフ・カンジョウ


الفترة الأولى من عصور ما قبل التاريخ
(العصر الحجري القديم) Paleolithic Period:

- عصور ما قبل التاريخ القديمة (انسان العصر الحجري)
- 1- الثقافة الاشولية - انسان الهمواريكوس (?- 400 الف)
- 2- الثقافة الموستيرية - انسان النيدرтал (200 - 35 الف)
- 3- البيرودية (350 الف)
- 4- الهملية (250 الف)

• (الصناعة الحجرية)



تل القرامل منشآت عمرها 10000 سنة Proto-Neolithic



Small round and oval houses no bigger than 2-3 m. Some are shelters, partly sunk in the ground (semi-sunk huts).

「ヘレニズム、ローマ、ビザンツ時代のシリア」

シャーケル・アル・シビーブ（パンテオン・ソルボンヌ大学・博士）

シャーケル・アル・シビーブ博士は、重要な遺跡や遺物を挙げながら、シリアのヘレニズムからビザンツ時代までを概説した。まずはそれぞれの時代における重要な出来事を地図で示し、その次は各時代の都市プランについて特徴を挙げながら説明した。当時の特徴的な建築物として、博士はローマ劇場、神殿や教会などの宗教的建造物、埋葬施設、公共浴場、オリーブ油やブドウの压榨施設などを挙げた。また特徴的な芸術作品としては彫像やモザイクを挙げた。



図 4 シャーケル・アル・シビーブ



図 5 会場の様子

「青銅器、鉄器時代のシリア」

西山伸一（中部大学・准教授）

シリアにおける青銅器時代と鉄器時代はおよそ 5000 年前から 2500 年前にあたる。青銅器時代と鉄器時代のシリアの特徴として、西山伸一氏は 1) メソポタミア、エジプト、地中海地域からの影響、 2) 都市生活の崩壊と復興、 3) 「民族」集団／領域国家／帝国間の衝突、そして 4) 現代文明の基礎を築いた、集団間の交流のダイナミクス、の 4 つを指摘し、各時代における主要な遺跡や遺物を挙げながら当時のシリアについて解説した。



図 6 西山伸一



(西山伸一撮影)



(西山伸一撮影)

「日本における社会と考古学の関係」

サリ・ジャンモ（筑波大学・大学院生）

2011年は日本とシリア両方において忘れがたい年となった。日本では東日本大震災が起き、多くの人命と文化財が失われた。シリアではアラブの春にはじまる民主化運動が内戦に発展、現在進行形で多くの文化財が破壊されている。サリ・ジャンモ氏はシリアの文化財を破壊しているのはシリアの国民自身であると指摘した。その主な原因としてあげられるのは、自分たちの歴史や文化についての教育の不足であり、人々の意識を変える方法として日本の事例を踏まえながら4つのポイントを挙げた。1つ目は学校教育、2つ目は博物館の活動、3つ目は研究機関から社会へのはたらきかけ、そして4つ目はボランティア活動である。幼少期から考古学への関心を高め、教育された世代を育てることは、将来文化財の保護に積極的に協力する人材を増やすことが期待されるため、特に子どもへの教育が重要であると強調した。



図7 サリ・ジャンモ



「放射線照射による書物の殺菌」

サイード・サッバーハ（イスタンブール工科大学・博士）

西アジア地域には貴重な書物の大きなコレクションがある。しかしその保存方法については現在も、完全に殺菌ができない、人体や環境に悪影響である、など数多くの課題がある。これらの資料に特に悪影響を及ぼすのは、菌類、バクテリア、虫、インクの変質であるが、特にカビやバクテリアは分厚い本の奥深くに潜んでいるため完全な殺菌が困難である。そこでサイード・サッバーハ博士が強く勧めるのが放射線の照射による殺菌であった。放射線を用いた方法には、有害な化学物質を残さない、分厚い書籍や資料が収納された箱の内部まで深く浸透する、書物にとって有害なカビや虫、バクテリアを完全に死滅させることができる、など多くの利点が挙げられ、理論上では現状最も優れた方法論であると主張した。

しかし、実用にいたるにはまだ実験が必要であり、高度な測定が可能な研究機関との連携が求められると述べた。

これらの新しい方法論の確立も重要ではあるが、適切な環境下で保管する、適した装備で資料を取り扱う、など正しい知識をもって資料を扱うことが何よりも重要であると教授は最後に指摘した。



図 8 サイード・サッバーハ



صور () أثر الحشرات على مصاحف جامع الجوهري بالموسكي و مكتبة مجلس الشعب بمصر، تظهر الصورة الحاجة إلى تعقيم المخطوط من الحشرات والممرضات قبل أن يقبل المرمم ترميم الكتاب خوفاً على صحة العاملين عليه.

The impact of insects on the Mus'hafs of Al-Jawhari Mosque in Moski and the People's Assembly Library in Egypt shows the need to sterilize the manuscript from insects and Pathogens before the restorer accepts the restoration of the book for fear on the health of the workers.

「シリア人がトルコの社会に適応するための教育の役割」

アブドゥッラ・シェイク・オグル (Al Huda 学校)

アブドゥッラ・シェイク・オグル氏はトルコにおける教育システムと、シリア人がトルコの社会に適応するために教育が果たす役割について述べた。シリアの人々が 2012 年にトルコへ移住し始めたとき、シリア人の教師たちは、シリア人のための学校を開設する許可をトルコに求めた。のちにトルコの教育省はシリア人学校の支援を始め、学校の数は増加した。同時に、いくつかの私立学校も開設されたが、これらの学校はシリア人の生徒を教育することよりも、金銭的な利益を優先したため、人々はトルコの教育省に事態の改善を要求した。トルコの教育省はシリアの人々の要求を受け、問題を解決するために動き、全てのシリア人学校は閉鎖された。そして同時期に教育省は 2016



図 9 アブドゥッラ・シェイク・オグル

年にシリア人の生徒のための「臨時学校」を設立した。さらに、教育省は UNHCR と連携しシリア人教師のための研修をいくつか設け、教師たちは教え始める前に試験に合格することが義務付けられた。

2018 年になると、教育省は「臨時学校」を廃止し、シリア人の生徒をトルコの学校に編入させることを決定した。当初は、子どもたちが特にトルコ語で困るのではないかという心配があったが、その結果は大人たちが想像していたよりも順調であった。生徒たちはトルコ語をまたたく間に覚え、トルコ人の生徒と良好な関係を築いた。これはシリア人の生徒がトルコの社会に適応する手助けとなった一方で、アラビア語とシリアの歴史を学ぶのが難しくなったという問題が生じることとなった。

「シリアの考古学の発展におけるスカウト活動の役割」

アナス・アル・ウェル（シリア、スカウト連合）

アナス・アラヴェア氏が所属する「シリア、スカウト連合」は、8歳から18歳までのシリア人とアラブ系の子どもたちを対象として活動を行っている。活動の目的は、シリアとトルコという異なる2つの国に共通してみられる歴史的特徴を通して、自国の歴史と現代のトルコの社会のなかに自分たちを位置づけることである。

シリア人の子どもたちは、シリアの地理的位置や自然環境について地図の観察や調べ学習から学び、またトルコの遺跡を訪れることで、2つの国の歴史にみられる共通点を探し結び付けていく。これらの活動を通じ、子どもたちは自分の国と歴史について関心を高めていった。現在トルコに住むシリア人の子どもたちは、周りの新しい社会・歴史に溶け込むために自国の歴史や社会から離れつつあるので、このようなスカウトの活動は重要であるとアナス・アラヴェア氏は指摘した。



図 10 アナス・アル・ウェル



• التجمع الكشفي السوري

- هو مجموعة من الشباب السوري المتطوعين لتنمية الفتية في تركيا من خلال الحركة الكشفية وطريقتها الجذابة
- تستهدف شريحة الأطفال و اليافعين السوريين والعرب من عمر 8 إلى 18 عام المتواجدين في مراكز التعليم المؤقت والمدارس التركية .
- مع تحقيق الهدف العام للحركة نعمل على أهداف جزئية من تعريف الأفراد على تاريخهم وحضارتهم من خلال مجموعة من الأنشطة والبرامج معدة على الطريقة الكشفية لكي ندمج المتعة مع المعرفة والتطبيق والعمل للتعلم الناشط .
- ربط الأفراد مع مجتمعهم الجديد من خلال مشاريع مختلفة منها تعريفهم على التاريخ المشترك للبلدين سورية وتركيا في مخلف المجالات الثقافية والاجتماعية .

「古都アレッポ：内戦中の記録・保存活動」

アフマド・マスリ（シリア考古学・文化財保存協会）

シリア考古学・文化財保存協会は、考古遺跡、歴史的建造物や遺物の保護をサポートすることを目的に2012年の11月に設立された。主な活動は、既知の遺跡や歴史的建造物の現状の記録、遺跡の保存と修復、盗まれた遺物の回収、という現場での活動に加え、その社会的・経済的・歴史的・文化的価値を広く一般に伝えるための広報活動も行っている。

発表では古都アレッポで行なわれているプロジェクトが紹介された。プロジェクトは大きく3つである。1つ目は、モスクやバザール、学校、住居などの歴史的建造物の現状の記録であり、統一された記録用紙をもとに、現在100以上の建物が記録された。2つ目は、シリアの考古学への関心を高める活動である。小学生向けに作成された冊子や、子ども向けのジグソーパズルなどが紹介された。3つ目は文化財の保護活動と緊急の修復作業である。これは建物そのものの保存と修復だけでなく、建物内に収められている遺物の記録・保存・安全な保管場所への移動も含まれていた。



図 11 アフマド・マスリ

The Syrian Association for the Preservation of Archaeology and Heritage

الجمعية السورية لحفظ الآثار والتراث
The Syrian Association for Preservation of Archaeology and Heritage

Current status of heritage buildings

- In the Old City of Aleppo, we documented more than 100 buildings, which are listed on the UNESCO list of World Heritage Sites.
- 90% of this buildings are affected and 10% are unaffected.



Aleppo Citadel

توثيق الوضع الراهن للمنشآت التراثية

- تم توثيق أكثر من 100 مبنى أثري مدرج على لائحة اليونسكو للتراث العالمي ضمن مدينة حلب القديمة.
- في مسح عام 2015 كانت 90% من هذه المباني متضررة بشكل جزئي أو كلي و 10% سليم.



Old Aleppo markets

「文化財に対する意識を高めるために」

バフジャッド・アル・ムスタファ (イスタンブール大学・大学院生)

バヒト・ムハムド・アルムスタファ氏は、文化財を1) 古代文明による遺産、2) 国家的な遺産、3) 1) によって建てられた建物や道路などの都市的な遺産、4) 文化遺産 (有形・無形) の4つに大分し、人々と文化財の繋がりを強めるためには関心を高めることが必要であり、そしてそれは文化財の破壊の抑制にもつながると主張した。そのためには、博物館の増設、文化財関連の出版物の配布、地方ごとの歴史的特徴の宣伝、文化財関連のワークショップの開催という4点を挙げた。また考古学には、経済的・精神的・科学的・信仰的な重要性があり、考古学は自分たちの歴史や文化の理解を深めるだけでなく、現代の生活にも有益な情報をもたらすと指摘した。発表の最後には、国際学生連合にて留学生が自国の歴史や伝統、文化について発表を行うという活動について紹介を行った。



図 12 バフジャッド・アル・ムスタファ



3. 結論

3日間のワークショップを通し、様々な年齢と立場の参加者の間で活発な意見交換が行われた。2011年から続く危機によって、シリア国内では多くの考古遺跡や文化財が破壊された。違法な発掘も地元の人々によって行われ、多くの考古遺物が国外に密輸されブラックマーケットに売られてしまった。このような事態を防ぐには、シリアの国民や生徒がシリアの文化財の重要性に対して関心を高めることが重要であり、私たち考古学者にはそれを促す責任がある。

人々の関心を高めるためには、シリアの歴史と考古学の重要性について、考古学教育を通してシリア人の生徒に伝える活動が重要である。そのために本ワークショップでは学校の教員、生徒そして NGO の職員が集まり、近隣諸国に暮らすシリア人に彼らの歴史と考古学の重要性について教えるための方法と、自分たちが果たすことのできる役割について議論した。全ての参加者はこのトピックの重要性と、一方でシリアに伝えることの難しさを理解した。

学校の教員や NGO の職員にとって、トルコの学校に通い、トルコの歴史について学んでいる生徒にシリアの歴史を教えるには、参考となる本や雑誌などの資料が現在不足しており、考古学に関する本や参考資料の準備が早急に求められる。さらに、トルコの学校と協力し、トルコの博物館や遺跡で生徒にツアーを実施する NGO に財政的支援を行うことが今後期待される。



図 13 最終日のディスカッションの様子



图 14 集合写真